

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 5 年 11 月 24 日(2023.11.24)

【公開番号】特開 2023-18464(P2023-18464A)
【公開日】令和 5 年 2 月 8 日(2023.2.8)
【年通号数】公開公報(特許)2023-025
【出願番号】特願 2021-122616(P2021-122616)
【国際特許分類】

H 0 1 R 13/6594(2011.01)

10

H 0 1 R 13/6582(2011.01)

H 0 1 R 12/71(2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/6594

H 0 1 R 13/6582

H 0 1 R 12/71

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 11 月 15 日(2023.11.15)

【手続補正 1】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

電線 11 の前端部では、皮剥ぎされたシース部 18 の端末から露出したシールド部 17 が、シース部 18 の端部上に折り返されている。折り返されたシールド部 17 から前方に突出した 2 本の被覆電線 16 は、金属板材が曲げ加工されたクリップ 31 によって保持されている。

【手続補正 2】

30

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

図 6 に示すように、第 1 基板側内導体 113 は、前後方向に延びるストレート部 117 と、ストレート部 117 の後端から斜め下方へ延びる屈曲部 118 と、屈曲部 118 の下端から下方へ延びる接続部 119 とを有している。ストレート部 117 の前部は、電線側コネクタ 10 との嵌合時に、電線側コネクタ 10 に装着された電線側内導体 12 と電氣的に接続される(図 3 参照)。

40

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

第 1 基板側外導体 111 は、一枚の金属板材がプレス加工、及び曲げ加工されることにより成形される。図 6 に示すように、第 1 基板側外導体 111 は、天板部 128、2 つの側板部 129、及び底板部 130 を有している。天板部 128 及び底板部 130 は上下方向で互いに対向し、各側板部 129 は幅方向(左右方向)で互いに対向している。図 6 に

50

示すように、底板部 1 3 0 は、幅方向中央部に、合わせ端部 1 3 1 を有している。第 1 基板側外導体 1 1 1 は、底板部 1 3 0 の合わせ端部 1 3 1 がアリ嵌合して凹凸状に噛み合うことにより、開き止めされ、その箱形状を維持することが可能となっている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 0】

[電線側コネクタ 1 0 と、第 2 基板側コネクタ 2 1 0 との嵌合工程]

10

続いて、電線側コネクタ 1 0 と、第 2 基板側コネクタ 2 1 0との嵌合工程の一例について説明する。第 2 回路基板 2 1 2 に固定された第 2 基板側コネクタ 2 1 0に、電線側コネクタ 1 0 が近付けられる。第 2 基板側コネクタ 2 1 0のフード部 2 1 6 内に電線側コネクタ 1 0 が挿入される。電線側コネクタ 1 0 のロックアーム 2 8 がフード部 2 1 6 と接触することにより、下方に撓み変形する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0 0 7 1】

さらに電線側コネクタ 1 0 がフード部 2 1 6 の奥方に押し込まれると、第 2 基板側コネクタ 2 1 0の第 2 基板側外導体 2 1 1の内壁に、電線側コネクタ 1 0 の電線側外導体 1 3 に設けられた弾性接触部 2 3 が接触する。これにより、第 2 基板側外導体 2 1 1と電線側外導体 1 3 とが電氣的に接続される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0 0 7 2】

さらに電線側コネクタ 1 0 がフード部 2 1 6 の奥方に押し込まれると、第 2 基板側内導体 2 1 3と、電線側内導体 1 2 とが電氣的に接続される。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 3】

さらに電線側コネクタ 1 0 がフード部 2 1 6 の奥方に押し込まれると、ロックアーム 2 8 が復帰変形し、第 2 基板側コネクタ 2 1 0の爪部 2 1 8 がロックアーム 2 8 のロック突起 2 9 と係合する。これにより、電線側コネクタ 1 0 と第 2 基板側コネクタ 2 1 0とが嵌合する（図 4 参照）。

40

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 3】

1 : コネクタシステム

50

1 0 :	電線側コネクタ	
1 1 :	電線	
1 2 :	電線側内導体	
1 3 :	電線側外導体	
1 4 :	電線側コネクタハウジング	
1 5 :	電線側誘電体	
1 6 :	被覆電線	
1 7 :	シールド部	
1 8 :	シース部	
1 9 :	ロア外導体	10
2 0 :	アッパー外導体	
2 1 :	筒状部	
2 3 :	弾性接触部	
2 4 :	覆い部	
2 5 :	接続バレル	
2 6 :	ランス孔	
2 7 :	収容部	
2 8 :	ロックアーム	
2 9 :	ロック突起	
3 0 :	ランス	20
3 1 :	クリップ	
3 2 :	アッパー誘電体	
3 3 :	ロア誘電体	
1 1 0 :	第1基板側コネクタ	
1 1 1 :	第1基板側外導体	
1 1 2 :	第1回路基板	
1 1 3 :	第1基板側内導体	
1 1 4 :	第1基板側コネクタハウジング	
1 1 5 :	第1基板側誘電体	
1 1 6 :	取付孔	30
1 1 7、2 2 8 :	ストレート部	
1 1 8、2 2 9 :	屈曲部	
1 1 9、2 3 0 :	接続部	
1 2 0、2 2 5 :	スルーホール	
1 2 1 :	ハウジング基部	
1 2 2 :	フード部	
1 2 3 :	爪部	
1 2 4 :	収容部	
1 2 5 :	固定具装着溝	
1 2 6 :	固定具	40
1 2 7 :	接続部	
1 2 8 :	天板部	
1 2 9 :	側板部	
1 3 0 :	底板部	
1 3 1 :	合わせ端部	
1 3 2 :	第1嵌合筒部	
1 3 6 :	突出片	
1 3 7 :	接続部	
1 3 8 :	ヒンジ部	
1 3 9 :	蓋部材	50

1 4 0 :	背 部	
1 4 1 :	側 部	
1 4 2 :	覆い部	
1 4 5 :	接 続 部	
1 4 6 :	挟持部	
1 4 7、2 3 1 :	導 電 路	
2 1 0 :	第 2 基板側コネクタ	
2 1 1 :	第 2 基板側外導体	
2 1 2 :	第 2 回路基板	
2 1 3 :	第 2 基板側内導体	10
2 1 4 :	第 2 基板側コネクタハウジング	
2 1 5 :	第 2 基板側誘電体	
2 1 6 :	フード部	
2 1 7 :	奥壁	
2 1 8 :	爪 部	
2 1 9 :	係止凸部	
2 2 0 :	取り付け孔	
2 2 1 :	筒 部	
2 2 2 :	誘電体包囲部	
2 2 3 :	フ ラ ン ジ	20
2 2 4 :	接 続 部	
2 2 6 :	係止凹部	
2 2 7 :	内導体収容室	

30

40

50